

事例発表

「シームレス化できなかった事例」

医療法人社団函館脳神経外科病院

医療ソーシャルワーカー 阿部 綾子

《 患者情報 》

患者：Aさん 80歳代前半 女性

診断名：誤嚥性肺炎

家族構成：娘一人（市内在住）

既往歴：甲状腺機能低下症・脳梗塞後遺症経過

経過：サービス付き高齢者住宅Bに入居中

要介護3 担当ケアマネ有

《 入院から退院後の経過 》

[4月20日]

前日より微熱があり、ヘルパー付き添いでC病院を受診し風邪くすりの処方を受ける。内服開始後、バイタルも安定したため施設で経過をみていたが、日に日に元気がなくなり食欲も低下。

[4月27日]

早朝、39度台の発熱と意識レベルの低下がみられ救急要請。2次輪番救急当番〇〇病院へ搬送、誤嚥性肺炎の診断で入院となる。その後、肺炎症状は軽快したが、廃用性症候群によるADLの低下が著明のため、リハビリ目的で転院の運びとなる。

[6月10日]

D病院からE病院へ転院。リハビリは順調に進み、ADLも肺炎発症前のレベルまで回復したため退院許可がおりる。

しかし、もともと生活の場としていたサービス付き高齢者住宅Bでは、以前よりADLが低下しており、夜間帯の対応も含め受入れ困難と断られる。

[8月30日]

E病院を退院し、在宅系施設Fへ入所となり、かかりつけ医は施設Fの協力病院でもあるGクリニックとなった。Gクリニックへの受診予定は9月5日の予定であったが、9月2日の時点で残薬が不足することが判明。在宅系施設FはGクリニックへ連絡し受診日の変更を依頼しようとしたが、9月2日～9月4日まで休診で連絡がとれなかった。最後に退院したE病院へ処方の追加の依頼をしたが、Gクリニックへ診療情報提供をしているとの理由で断られる。

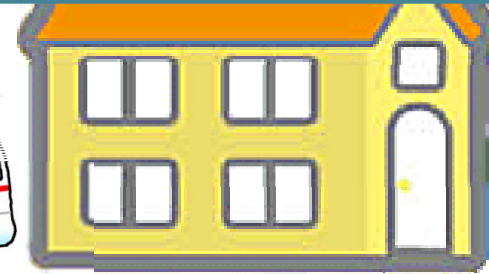
[9月3日]

予約なしでGクリニック宛ての診療情報提供を持参してD病院を受診。D病院でも対応に苦慮したがMSW介入でひと段落する。

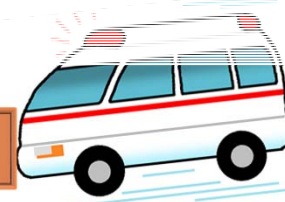
D病院

サービス付き高齢者住宅B

MSW介入で
なんとか処方

4/27



C病院

ADL的にもう見れない

在宅系施設F

6/10



Gクリニックへ
診療情報提供をしているので
処方出来ない

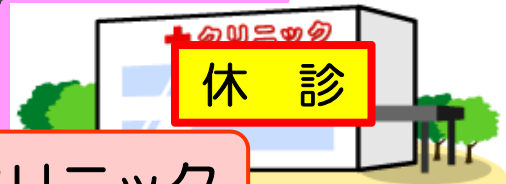


協力医療機関

休診

Gクリニック

E病院



Aさん

サービス付き
高齢者住宅B

D病院

C医院

在宅系施設F

E病院

Gクリニック

